

令和 6 年度 石巻市病院事業会計決算の概要及び患者動向等

1 決算の概況

- (1) 令和 6 年度の総収支は4億1,100万円の赤字となった。圏域内の入院患者の受入調整や市内医療機関との連携強化など、経営改革プランに位置付けた取り組みにより、入院収益を中心に医業収益は4,000万円増加した。
- (2) 経常収支は4億8,400万円の赤字となった。赤字の主な要因としては、人事院勧告に基づく職員給与費の増加や委託料など経費の高騰によるところが大きい。
- (3) 医業収益は増加したが、医業収支及び医業収支比率の改善には至っておらず、更なる経営改善が不可欠である。

(単位：百万円・税抜き)				
区 分		令和 6 年度	令和 5 年度	対前年度比
総収益	A	4,797	4,849	△52
経常収益	B	4,714	4,764	△50
医業収益	C	3,375	3,335	40
医業外収益	D	1,339	1,429	△90
特別利益	E	83	85	△2
総費用	F	5,208	5,111	97
経常費用	G	5,198	5,105	93
医業費用	H	5,023	4,925	98
医業外費用	I	175	180	△5
特別損失	J	10	6	4
医業収支	C-H	△1,648	△1,590	△58
経常収支	B-G	△484	△341	△143
総収支	A-F	△411	△262	△149

主な増減要因

市立病院の入院・外来収益の増
長期前受金戻入の減及び新型コロナウイルス感染症関連補助金の皆減

給与費及び経費（委託料）の増

	令和 6 年度	令和 5 年度
医業収支比率	67.2	67.7
経常収支比率	90.7	93.3



(2) 外来

- ア 市立病院の外来患者数は前年度比1,253人増加し、収益は前年度比900万円の増収となった。
- イ 牡鹿病院の外来患者数は前年度比253人増加したが、収益については多剤併用見直し（ポリファーマシー）と検査項目の見直しを進めたところ1,200万円減収となる結果となった。
- ウ 全体としては患者数は増加したものの、収益、診療単価共に前年度に比べ減少となった。

区分	外来収益 (百万円・税抜き)		延患者数 (人)		診療単価 (円)		1日平均患者数 (人)	
		対前年度比		対前年度比		対前年度比		対前年度比
市立	642	9	46,142	1,253	13,923	△185	189.9	5.2
牡鹿	131	△12	11,855	253	11,041	△1,240	48.8	1.1
全体	773	△3	57,997	1,506	13,334	△399	238.7	6.3



2 収益の状況

- (1) 入院
- ア 市立病院では、新型コロナの診療報酬上の特例期間が満了となったことで診療単価は下がったが、ベットコントロール等に注力した結果、病床利用率が上昇し7,900万円の収益増となった。
- イ 牡鹿病院では、年度当初の休床等により病床利用率は大幅に減少し、2,200万円の収益減となった。
- ウ 全体では患者数、病床利用率及び収益は前年度を上回り、市立病院では新病院開院後最高となった。

区分	入院収益 (百万円・税抜き)		延患者数 (人)		診療単価 (円)		病床利用率 (%)	
		対前年度比		対前年度比		対前年度比		対前年度比
市立	2,169	79	54,087	3,713	38,247	△1,279	82.3	5.9
牡鹿	31	△22	2,440	△1,753	12,212	178	26.7	△19.1
全体	2,200	57	56,527	1,960	37,138	△296	75.5	2.8

3 費用の状況

- (1) 医業費用全体では、給与費や経費の増加が影響し、9,800万円の増加となった。
 (2) 給与費は、人事院勧告に基づく給与改定の影響が大きく、1億2,800万円の増加となった。
 (3) 経費については光熱水費の節減に努めたものの、委託料の高騰が大きく影響し3,500万円増加となった。

(単位：百万円・税抜き)

区 分	令和6年度	令和5年度	対前年度比
医業費用	5,023	4,925	98
給与費	2,666	2,538	128
材料費	606	630	△24
経費	1,076	1,041	35
減価償却費	663	701	△38
資産減耗費	2	3	△1
研究研修費	11	12	△1
医業外費用	175	180	△5
特別損失	10	6	4
合計	5,208	5,111	97

主な増減要因

人事院勧告による給与改定
 物価高騰、人件費上昇による委託費の増
 償却資産の減少による減

4 資本的収支の状況

- (1) 市立病院では開院8年を経過したことにより開院時に購入した医療機器の更新、牡鹿病院においても医療機器の更新を行っているが、前年度比で減となっている。

(単位：百万円・税込み)

区 分	令和6年度	令和5年度	対前年度比
資本的収入	250	319	△69
企業債	150	247	△97
他会計出資金	88	65	23
他会計負担金	6	7	△1
県補助金	6	0	6
資本的支出	332	401	△69
建設改良費	162	254	△92
企業債償還金	170	147	23
差引	△82	△82	0

主な増減要因

建設改良費の減に伴う減
 企業債償還金の増加による増
 新興感染症対応力強化事業費補助金
 牡鹿病院施設改修の皆減、医療機器更新の減
 企業債償還金の増加による増

5 一般会計繰入金の状況

- (1) 医業収益は、両病院ともに救急医療の確保に係る経費が減少し、繰入金も減少となっている。
 特に牡鹿病院では、救急医療に携わる医師1名の削減があったことによる。
 (2) 医業外収益は、退職手当組合負担金が増加したことにより、繰入金も増加している。

(単位：百万円)

区 分	令和6年度	令和5年度	対前年度比
収益的収入	1,045	1,047	△2
医業収益	265	283	△18
医業外収益	698	682	16
特別利益	82	82	0
資本的収入	95	72	23
合計	1,140	1,119	21

主な増減要因

救急医療経費の減
 退職手当組合負担金の増
 R5企業債（医療機器）の償還開始に伴う増

基準内・基準外の割合

市立病院：基準内67.2%・基準外32.8%
 牡鹿病院：基準内61.0%・基準外39.0%
 2病院計：基準内65.7%・基準外34.3%

6 貸借対照表

(単位：百万円)

勘 定 科 目	令和6年度	令和5年度	対前年度比
固定資産	9,171	9,692	△521
流動資産	1,109	1,279	△170
現金預金	225	602	△377
未収金	638	640	△2
貯蔵品	46	37	9
その他流動資産	200	0	200
資産	10,280	10,971	△691
固定負債	700	716	△16
企業債・リース債務	700	716	△16
流動負債	862	650	212
企業債・リース債務	166	176	△10
未払金	319	323	△4
引当金	174	150	24
その他	203	1	202
繰延収益	8,230	8,795	△565
負債	9,792	10,161	△369
資本金	1,696	1,608	88
剰余金	△1,208	△798	△410
資本	488	810	△322
負債資本	10,280	10,971	△691

主な増減要因

減価償却に伴う減
 収益以上に給与費や経費が増加
 牡鹿病院から市立病院に運転資金を貸付
 市立病院が牡鹿病院から運転資金を借用
 減価償却費に係る長期前受金戻入による減少

※正しくは、対前年度比「△411」であるが、
 端数処理の関係により「△410」と表記

7 キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区 分	令和6年度	令和5年度	対前年度比
期首残高	602	757	△155
業務活動によるCF	△310	△95	△215
投資活動によるCF	△130	△219	89
財務活動によるCF	63	159	△96
期末残高	225	602	△377

主な増減要因

給与費等の増による減
 建設改良費の減
 企業債発行の減、企業債償還費の増

8 一時借入金の状況

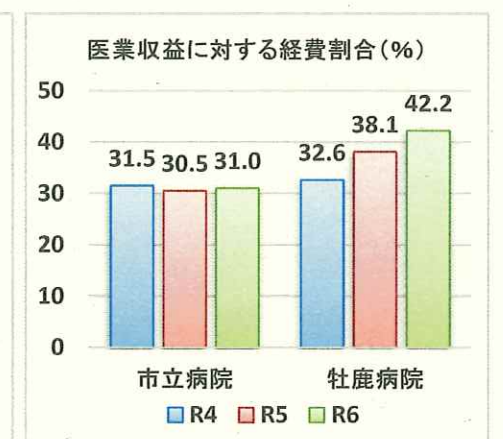
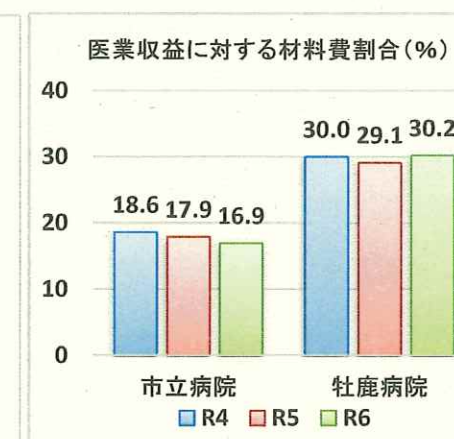
(単位：百万円)

令和6年度	令和5年度	対前年度比
0	0	0

主な増減要因

令和3年度以降一時借入の実績なし

9 医業収益に対する主要3費用の割合



10 病院別決算概要

(単位：百万円・税抜き)

区 分		市立病院		牡鹿病院	
			対前年度比		対前年度比
総収益	A	4,302	12	495	△64
経常収益	B	4,219	13	495	△63
医業収益	C	3,120	94	255	△54
医業外収益	D	1,099	△81	240	△9
特別利益	E	83	△1	0	△1
総費用	F	4,636	128	572	△31
経常費用	G	4,626	124	572	△31
医業費用	H	4,469	123	554	△25
医業外費用	I	157	1	18	△6
特別損失	J	10	4	0	0
医業収支	C-H	△1,349	△29	△299	△29
経常収支	B-G	△407	△111	△77	△32
総収支	A-F	△334	△116	△77	△33

主な増減要因、考察

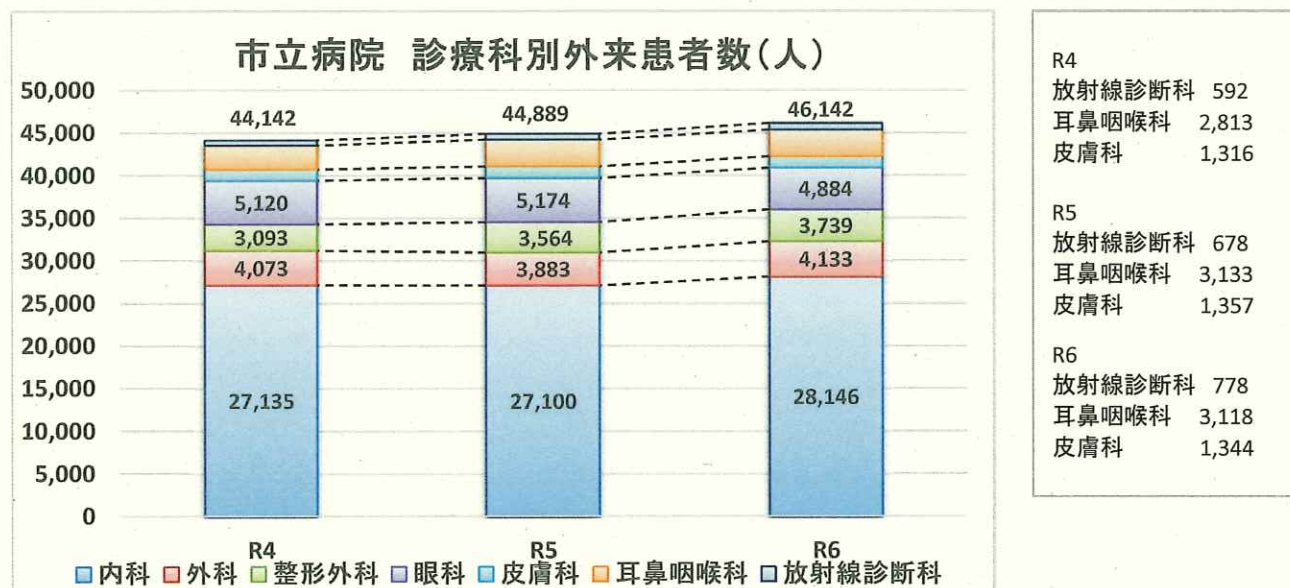
市立病院

- 医業収益は、入院収益が増加し前年度対比で9,400万円増加し、新病院開院以来最大の収益となったが、人事院勧告や物価高騰が大きく影響し、医業費用は1億2,400万円増加した。物価高騰等の社会的要因が大きく影響している側面もあり、機会を捉え国、県等に対し財政支援を求めながら（令和7年5月28日中央要望実施）、併せて、経営改善への取組みを推進していく必要がある。
- 医業外収益の減少要因は、「新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備費補助金」（約3,500万円）が皆減したほか、長期前受金戻入（約6,700万円）の減少が主な要因である。

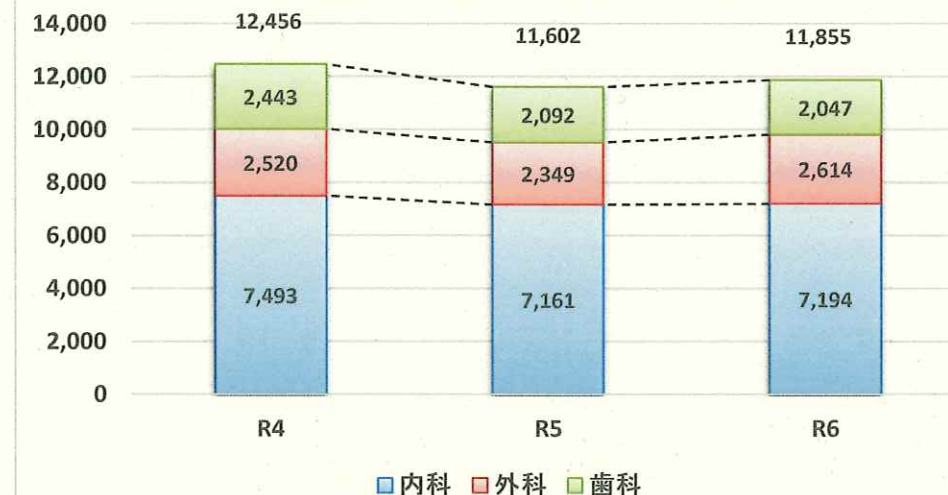
牡鹿病院

- 地域が人口減少するなかであって、地域ニーズにあわせた検査項目の見直し等に取り組み外来患者数は増加したが、年度当初の休床も影響し医業収益が前年度対比で5,300万円の減少となり、医業収支は悪化している。
- 入院患者数、収益は大幅に減少しており、地域のニーズを踏まえた運営形態、病院機能の見直しが必要となっている。

11 診療科別外来患者数の推移



牡鹿病院 診療科別外来患者数(人)



12 「石巻市公立病院経営強化プラン」の進捗

- 石巻市立病院では、入院において、「病床利用率」と「1日平均患者数」は各目標を達成したが、「患者1人1日当たり診療収入」は目標を下回った。
- 外来では、「1日平均患者数」は目標を達成したが、「患者1人1日当たり診療収入」は目標を下回った。
- 牡鹿病院では、入院における「患者1人1日当たり診療収入」は目標を達成したものの、「病床利用率」と「1日平均患者数」は目標を下回る結果となった。
- 外来では、「1日平均患者数」、「患者1人1日当たり診療収入」とともに目標を下回った。

病院名	区分	主な目標項目	目標	実績	達成率
石巻市立病院	入院	病床利用率	80.6%	82.3%	102.1%
		1日平均患者数	145.0人	148.2人	102.2%
		患者1人1日当たり診療収入	42,420円	40,100円	94.5%
	外来	1日平均患者数	179.9人	189.9人	105.6%
		患者1人1日当たり診療収入	15,000円	13,923円	92.8%
石巻市立牡鹿病院	入院	病床利用率	35.9%	26.7%	74.4%
		1日平均患者数	9.0人	6.7人	74.4%
		患者1人1日当たり診療収入	12,095円	12,628円	104.4%
	外来	1日平均患者数	51.3人	48.8人	95.1%
		患者1人1日当たり診療収入	13,318円	11,041円	82.9%